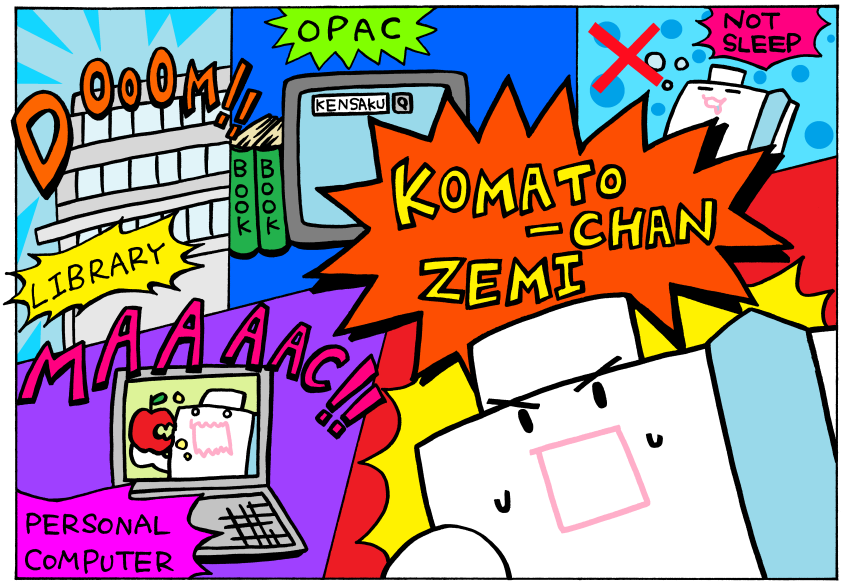


東京大学教養学部　主題科目　全学自由研究ゼミナール

「図書館の学び・活用・提案（こまとちゃんゼミナール）」

2019年度A2ターム成果発表冊子

主題科目　全学自由研究ゼミナール
「図書館の学び・活用・提案（こまとちゃんゼミナール）」
2019年度A2ターム成果発表冊子

目　次

「こまとちゃんゼミナール」とは？　5

本冊子（2019年度A2ターム成果）について　7

手紙で読む芸術家の心　8

教科書では語られない隠れた歴史　13

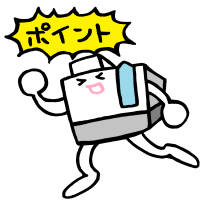
こまとちゃんイラスト	東京大学駒場図書館
図書紹介パネル画像	かわいいフリー素材集 いらすとや　https://www.irasutoya.com/ Pixabay　https://pixabay.com/ja/
図書書影	版元ドットコム　https://www.hanmoto.com/ （URLは全て2020年1月31日最終確認）

「こまとちゃんゼミナール」とは？

「図書館の学び・活用・提案」（通称こまとちゃんゼミナール）は、 東京大学教養学部生のホームライブラリーである駒場図書館の使い方を身に付け、学習や研究に役立てるための授業です。さらに図書館と学生の協働の試みとして、学生側からの提案プレゼンテーションや資料紹介の展示作成等を行っています。

2017年からターム授業として開講され、担当教員による授業進行を中心に、東京大学駒場図書館や同大学本部情報基盤課学術情報チーム［学術情報リテラシー担当］からの協力を得て実施しています。

授業内容紹介



駒場図書館公式キャラクター
「こまとちゃん」

「こまとちゃんゼミナール」は前半、後半に分けられています。

前半タームでは、大学図書館をより深く利用するための実習を行います。具体的には、1. 駒場図書館の概要を知る、2. 学習や研究のための図書館活用法（参考図書 やレファレンスサービス等）を学ぶ、3. 情報を探すための基本的なデータベースの使い方を習得する　などを通して、学内で利用可能なリソースを使いこなす練習をします。

後半タームでは、利用者である学生側からの図書館サービス／企画の提案や（2017年S2ターム、2018年A2ターム）、 所蔵資料を発信するための展示（2017年A2ターム、2018年S2ターム）を行っています。さらに駒場博物館や駒場図書館のバックヤード見学会やビブリオバトルも開催しました。

授業内容例（2019年度A1ターム）

回・日程	内容
第１回（2019年9月26日）	ガイダンスと導入講義～図書と雑誌の違いとは？
第２回（2019年10月3日）	図書館が所蔵する資料の種類、書誌情報の読み方、図書・雑誌の探し方（1）
第３回（2019年10月10日）	図書・雑誌の探し方（2）、参考図書の使い方
第４回（2019年10月17日）	検索実習（1）学外アクセスとGACOS、事典データベースの使い方
第５回（2019年10月24日）	検索実習（2）論文データベースの使い方、検索を利用したグループ対抗ゲーム
第６回（2019年10月31日）	文献管理ツールの紹介、レファレンスサービスの利用（1）
第７回（2019年11月14日）	レファレンスサービスの利用（2）、まとめ

授業内容例（2019年度A2ターム）

回・日程	内容
第１回（2019年11月28日）	ガイダンスと導入講義、駒場博物館見学
第２回（2019年12月5日）	ビブリオバトルの実施、チーム決めとテーマ検討
第３回（2019年12月12日）	駒場図書館バックヤード見学、資料の選定
第４回（2019年12月19日）	紹介文執筆、紹介文のブラシュアップ（1）
第５回（2019年12月26日）	紹介文のブラシュアップ（2）
第６回（2020年1月9日）	展示紹介のプレゼンテーション発表会、展示準備
第７回（2020年1月16日）	展示設営、まとめと振り返り

本冊子（2019年度A2ターム成果）について

本冊子は、2019年度A2ターム授業の成果発表として東京大学駒場図書館にて2020年1月16日から1月30日まで開催されたパネル展示の内容をまとめたものです。チームごとにテーマを決め、駒場図書館所蔵資料を中心にテーマに関連する資料を選び（一部他大学所蔵の図書を含む）、紹介文を執筆／ブラシュアップし、展示パネルを作成しました。テーマは受講生の関心に沿った形で選ばれており、芸術家の手紙や教科書に載らない歴史のエピソードなど多岐にわたっています。駒場図書館の所蔵資料を知るのはもちろんのこと、今後の駒場図書館と学生との協働の一助となれば幸いです。

冊子作成を含めた授業実施および準備には駒場図書館、駒場博物館の皆様に多大なご協力をいただきました。この場を借りて感謝申し上げます。

「図書館の学び・活用・提案」担当教員　岡本佳子

手紙で読む芸術家の心

チーム名
エピストゥラ
今井遼
重城守
中村潤
傅斯敏

最近皆さんは手紙を出す機会はありましたか？スマートフォンなどの電子機器の普及で手紙を出す機会はほとんどなくなったように思います。
しかし、電子機器出現以前の近現代の人々にとっては、主要な通信手段は手紙だったのです。そこで私たちは手紙という側面から近現代の人々、特に芸術家を分析することにしました。
昔の手紙には他の人からこっそり隠しておきたいような内容が書かれていることが多々あります。そうした手紙を読むことで、世間一般のイメージとは違う人物像が浮かんできたり、知らなかった事実が見えてくる。そんな体験を皆さんと共有できればと思います。

エピストゥラ（Epistula）
ラテン語で「手紙」の意。書簡形式の詩を指すこともある。

植田安也子　逸見久美編

「天眠文庫蔵 与謝野寛 晶子書簡集」

八木書店　1983　【B1F 集密】

この度の御文何も何も
私どものために御たて
下され候ひし御もくろ
みと涙こぼれ候

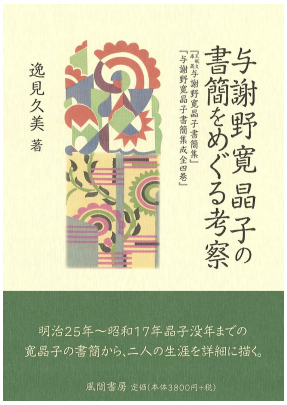
この本には、大阪の繊維商で生涯与謝野夫婦と深い親交があった小林天眠（本名・小林政治）とその家族に宛てた書簡、明治35年から昭和15年までの約600通が収載されています。例えば、明治42年8月19日の晶子の書簡には「この度の御文何も何も私どものために御たて下され候ひし御もくろみと涙こぼれ候」という天眠依頼の晶子の源氏物語口語訳の企画についての感激の一文があります。しかし実際には予定通りにはいかず、原稿は関東大震災で全焼してしまったというエピソードが載っています。この他にも与謝野・小林両家の子供たちの成長ぶりや時代の推移による夫婦の生活、思惑、悩みなど綿々と綴られ、こういったことからも親交の深さを痛感します。
こうした書簡に綴られた内容と与謝野晶子に関する有名な史実を結び付けてみると新たな発見があるかもしれません。ぜひ読んでみてください。（今井）

逸見久美

「与謝野寛晶子の書簡をめぐる考察」

風間書房　2016　【3F 開架】

何れと死とおもひきめ
て扨いろいろのことお
もひ候ひき



この本は、明治25年から昭和17年までの寛と晶子の書簡について年代順に抄出し、著者が考察を加えたものです。
ここでは、明治34年に晶子から鉄幹に送られた発見されている中で最も古い書簡を紹介します。2月2日の書簡には、「何れと死とおもひきめて扨いろいろのことおもひ候ひき。（中略）それせめて君へのわがつミむくひまゐらすことかなどもおもひ候。」という箇所があります。これは、晶子が考えぬいて死を決意したものの、鉄幹をこの世に残してその鉄幹の命を二人目の妻である瀧野にかけてと願い、「今日その瀧野さんとあなたは末長く共にお過ごしください」と述べた上で瀧野の父君に手紙を残したいなどと思い、それがせめてもの鉄幹への罪の償いだと思っている、という晶子の告白になっています。
このように、書簡一つとってみるだけでも与謝野晶子の嫉妬深さというような意外な一面が見えてきます。こうした意外な面をさらに知ってみたいという方にぜひ読んで欲しい一冊です。（今井）

山崎國紀

「森鴎外の手紙」

大修館書店　1999　【B1F 集密】

ドチラニモ満足致候様ニハ収マリ難ク

この本は1500通以上残っている鴎外の手紙のうち、彼の人生の節目に書かれた31通を収めたものです。鴎外には軍医と小説家、評論家としての顔の2つがあると言われますが、彼は文壇の友人に対しても軍医の上司に対しても心情を大胆に発露した手紙や弱音を吐くような手紙を書くことはあまりありませんでした。例えば明治21年に友人の賀古鶴所に宛てた手紙では『舞姫』のモデルになったとされるエリーゼに関する相談をしています。彼の後を追って日本にやってきたエリーゼとの関係について、「ドチラニモ満足致候様ニハ収マリ難ク」と書き、別れる決心をしています。一方で弱音を吐くような文面はほぼ見られません。
家族に対する手紙からは違った一面が垣間見えます。日露戦争の際に戦地から妻に送った手紙では、漢字平仮名交じりの文を用いて子どものことやお土産のことなどを上機嫌に書いています。また晩年の手紙では死因となった肺結核の症状とみられる、体調不良の様子を家族に伝えています。
鴎外の人生が生き生きと伝わってくる一冊です。（中村）

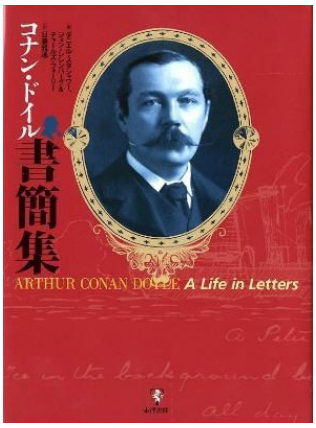
コナン・ドイル著　ダニエル・スタシャワー, ジョン・レレンバーグ,
チャールズ・フォーリー編　日暮雅通訳

「コナン・ドイル書簡集」

東洋書林　2012　【3F 開架】

シャーロック・ホームズにはうんざりしています

『シャーロック・ホームズ』の生みの親、コナン・ドイル。誰もが知る名探偵シャーロック・ホームズを生み出したのはどのような人物なのでしょうか。
この本にはコナン・ドイルが少年時代から50代になるまでに書いた手紙が収められています。特に母親に対しては「彼（シャーロック・ホームズ）にはうんざりしています」と書いてホームズの物語を終わらせる決意を伝えたり、「いい案があったら教えてください」と物語の結末を相談したりするなど信頼と愛情が伝わってきます。
また、選挙に立候補するほど政治への関心が強かった彼の手紙には19世紀後半から20世紀初頭にかけてのイギリスの政治情勢が色濃く反映されています。第一次世界大戦の際には「お母さんの平穏な日々がドイツにかき乱されるのは残念です」と書き、内容も戦況や軍隊の話が多くなりますが、それは当時の帝国主義的な雰囲気や人々の感情をよく反映しています。コナン・ドイル、そして彼と同時代を生きた設定のシャーロック・ホームズの背景が分かる一冊です。（中村）



安原喜弘

「中原中也の手紙」

講談社　2010　【B1F 集密】

昨日は失礼しました

中原中也と最も長く親交のあった著者が、解説を交えながら中原からの手紙を紹介した一冊。七年間にわたって著者に届けられた計100通の手紙が収録されています。
手紙全体を通してみると、「昨日は失礼しました。」という書き出しが頻繁にみられることに気づかされます。中原の死後著者の手に届いた最後の手紙などは

> 昨日は失礼しました（序で乍ら失礼といえば却て失礼になるというような場合、どんな語法があるのでしょうか）

と始まります。
昨今で中原中也といえば、太宰治への「青鯖が空に浮かんだような顔をしやがって。」という発言など、「詩人でありながら破天荒な行動、言動をする異端者」という印象が流布しているようです（彩図社文芸部編「文豪たちの悪口本」、2019）。
確かに本書を読むと、中原が酔って酒場で人とトラブルを起こしかけ、それを著者がなだめすかすことは頻繁にあったことが分かります。ですが、その翌日には前述のような書き出しの手紙を送っており、粗雑な振る舞いや言動の陰には隠れた中原の繊細さ、律義さがあったことが伺える一冊です。（重城）

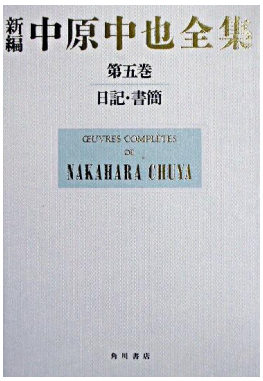
中原中也著　大岡昇平, 中村稔, 吉田熙生, 宇佐美斉, 佐々木幹郎編

「新編中原中也全集 第5巻 日記・書簡」

角川書店　2000　【B1F 集密】

君に会いたい

中原の手紙を網羅的に参照するだけでなく、日記と合わせて分析することで新たな楽しみをもたらしてくれる一冊です。
例えば1927年の１月19日、中原は小林秀雄宛ての手紙で、夏目漱石を「多くの人が買ひかぶる」人、「よく暗唱した人の随筆」などとさんざんにやっつけた後、末尾にぽつりと一言「君に会いたい」と記した印象的な手紙 を送っています。
同時期の日記を見ると、「頭の悪いということだけが罪悪だ」「天才だけが好いのだ。あとは何といっても大同小異なのだ」などの投げやりな言葉が並んでいます。当時20代だった中原が、どのように「君に会いたい」という言葉に至ったのか。日記という手がかりからその心境を察してみるのも面白いかもしれません。
また、日大の試験に遅刻し、試験会場に入れなかった帰りの電車の中でやけくそ気味にしたためた手紙など、ユーモアに富んだものも多く含まれており、研究、調査目的だけで手に取るには惜しい内容になっています。（重城）



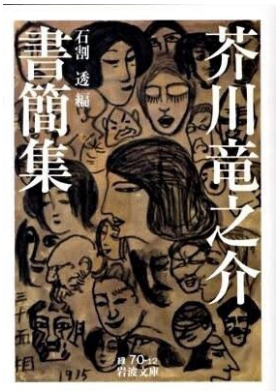
石割透編

「芥川龍之介書簡集」

岩波書店　2009　【2F開架】

ボクは文ちゃんが
お菓子なら頭から食べて
しまいたい位
可愛い気がします

『羅生門』や『蜘蛛の糸』など、芥川龍之介の小説を誰しも一度は読んだことがあるのではないでしょうか。彼の小説に理知的、芸術的などといった印象を抱いた人もいれば、小説にとどまらず、芥川龍之介という人間に興味を抱いた方もいるかもしれません。そんな方々に、この本をお勧めします。
「この頃の暑さに、我々の長い手紙をお讀になるのは、御迷惑だらうと思ひますが、これも我々のやうな門下生を持つた因果と御あきらめ下さい。」これは夏目漱石に宛てた手紙の一部ですが、師を気遣う優しさの間にもユーモアが顔を覗かせているように感じます。また、芥川が「文ちゃん」と呼んでいる、後に妻となる女性へ宛てた恋文も一読に値します。
「この頃ボクは文ちゃんがお菓子なら頭から食べてしまいたい位可愛い気がします。」これほどストレートに愛情を綴っている芥川を想像できますか。
ここでご紹介した他にも、彼の私生活における人間味を存分に感じることができることを保証します。ぜひ一度手にとってみて下さい。（傅）



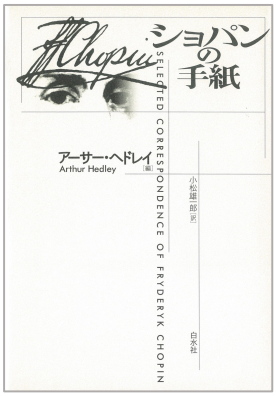
ショパン著　アーサー・ヘドレイ編

「ショパンの手紙」

白水社　2003　【3F開架】

いまぼくという特製の粘土は雨でどろどろにならない。
体温は華氏で九十度あるからね。

突然ですが、ショパンの曲はお好きですか。音楽はそれほど詳しくないという方でも、《革命のエチュード》を聴いて溢れる激しい情熱に胸を打たれた覚えがあるのではないでしょうか。彼はロマン派音楽を代表するポーランドの作曲家であり、ピアニストでもありました。一部分だけ、彼が残した手紙を紹介させてください。
「いまぼくという特製の粘土は雨でどろどろにならない。体温は華氏で九十度あるからね。しかし、親愛なる君！ぼくの内部にはうさぎ小屋を作るほどの粘土もないのだ。」紡ぐ言葉がこの上なく独特で面白い世界観を作り上げていますよね。一体、この手紙を書く前にどんなことがあってショパンは自らを粘土と表現したのでしょうか。それもうさぎ小屋さえ作れないだけの！気になった方、調べ物のついでに探ってみてはいかがでしょうか。数々の美しい旋律を残し、ピアノの詩人とも呼ばれたショパンの手紙には、その芸術性が秘められています。（傅）



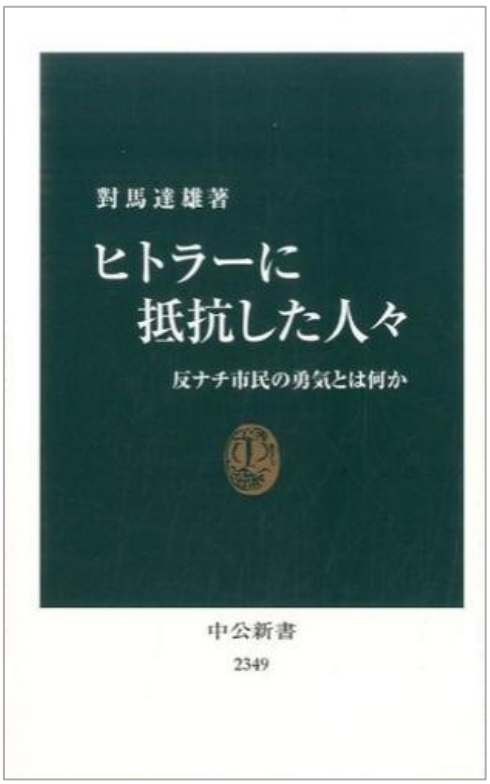
教科書では語られない
隠れた歴史

チームカイザー
佐藤響　鈴木友貴　西川知希　西嶋渉

展示テーマ紹介

全国の中高生は皆教科書を読み、歴史を学ぶことになっている。しかし、教育機関における限られた授業時数の中で原始時代から現代までを扱わなければならないため、その叙述の内容は歴史のほんの一部分でしかない。そこで本展示では、「ナポレオン」、「アドルフ・ヒトラー」、「足利将軍」という3つのテーマについて、教科書には載らない隠れた歴史を紹介していく。私たちが教科書で学んだ歴史の流れに、どんなまだ見ぬ人物や出来事が絡んでいるのだろうか。

西嶋渉



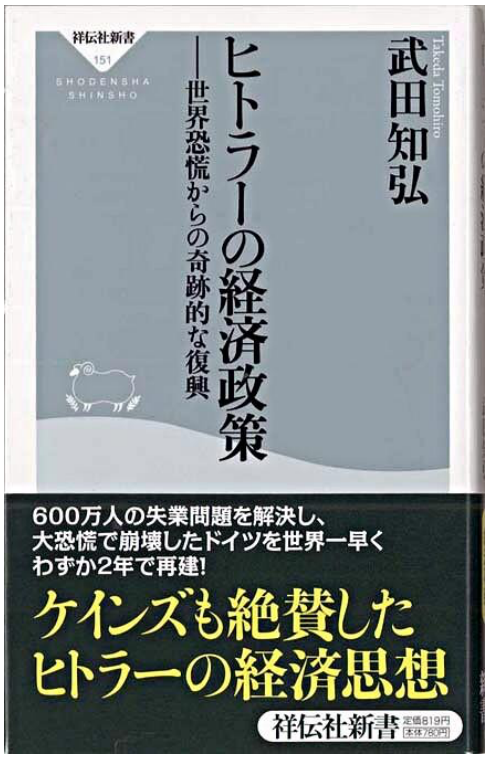
對馬達雄『ヒトラーに抵抗した人々』（中公新書2349）

中央公論新社、2015年

ナチス・ドイツの歴史が語られるとき、往々にして、ユダヤ人憎悪を掲げたアドルフ・ヒトラー支配のプロパガンダと恐怖政治というイメージが先行する。その陰に隠れて、実はヒトラー暗殺の計画・未遂が40件以上にものぼることをご存知だろうか。無名の男女小市民からエリート軍人に至るまでさまざまな階層の人々がナチズムに真っ向から立ち向かったのである。

しかし、ワイマル政末期に破綻していた経済を回復させ、雇用問題にも目に見える成果を上げたという点で、大半のドイツ国民はヒトラーを支持していた。彼らにとってみれば、ナチ体制を否定する者は生活を脅かす存在だったのである。そのような意味で反ナチズムを掲げた市民たちの置かれた状況は非常に厳しいものであったと感じざるを得ないが、なぜ彼らは抵抗したのだろうか。「ひと」としての倫理観を貫き、ナチズムに抵抗した人々の実像が今明らかになる。

西嶋渉



武田知弘
『ヒトラーの経済政策
－世界恐慌からの奇跡的な復興』

祥伝社、2009年

共産主義崩壊以降、世界各国は資本主義の優位性を強く認識し、利潤追求のため弱者を虐げ企業や投資家の利益を優先する社会を作ってきた。そのような社会の構築が進んだ先進国はリーマンショック以降の不景気から抜け出せていない。

類似的な状況は世界恐慌にも見て取れる。そのような状況下でドイツは早期に不景気から脱し、社会的弱者に対して適切に保護する社会を構築した。ナチス・ドイツの残虐な政治政策は後世においても厳しく非難されるべきであるが、ヒトラーのもとでドイツ経済の復興・活性化を任されたシャハトの政策は後世においても評価される余地があるものである。シャハトの経済政策の基本原理は生活に困っているものをまず助ける」というもので、これは国内の金の動きを活性化させる意味でとても有効である。

また、当時のドイツは世界最高水準の福祉国家であり、そのユニークな資金調達方法も本書で紹介されている。ドイツの経済・人民の復活の軌跡を是非とも見て欲しい。

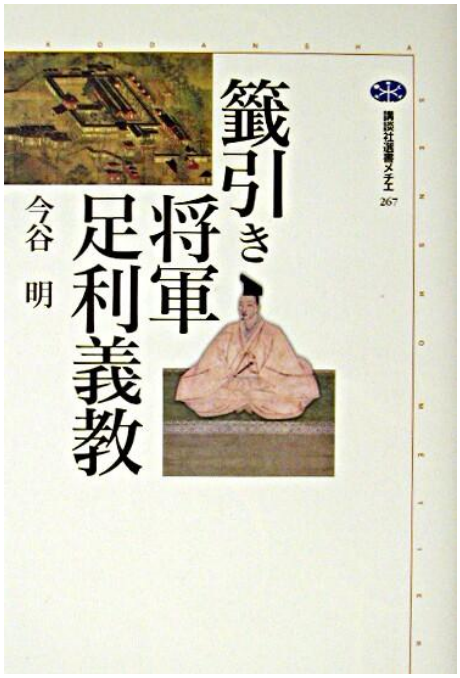
西川知希

山田康弘『戦国時代の足利将軍』
吉川弘文館、2011年

従来の歴史学の世界では、応仁の乱後の足利将軍は形骸化した存在だったという意見が主流で、歴史教育の場においても、室町幕府の9代将軍から15代将軍までがクローズアップされることは滅多になかった。では、戦国時代の足利将軍は果たして何をしていたのだろうか？本当にその常識は正しいのだろうか？本書は、歴史学者の緻密な分析でそういった疑問を解き明かすことを目的として書かれたものである。

室町幕府は大名の軍事力に依存した政権であったが、大名が領民との結びつきを強めるにつれ、幕府から自立する大名も増えた。それが一般論であり、本書でも認められているところである。それでも、戦国時代の幕府と歴史の影に潜む戦国時代の将軍たちは、大名と緩やかに連携することで、統治上一定の役割を担い、それを全うしていたのである。そんな隠れた歴史を、戦国時代の将軍と大名の関係を具体例から探ることで理解できる本書は、日本史好き必読の一冊である。

鈴木友貴

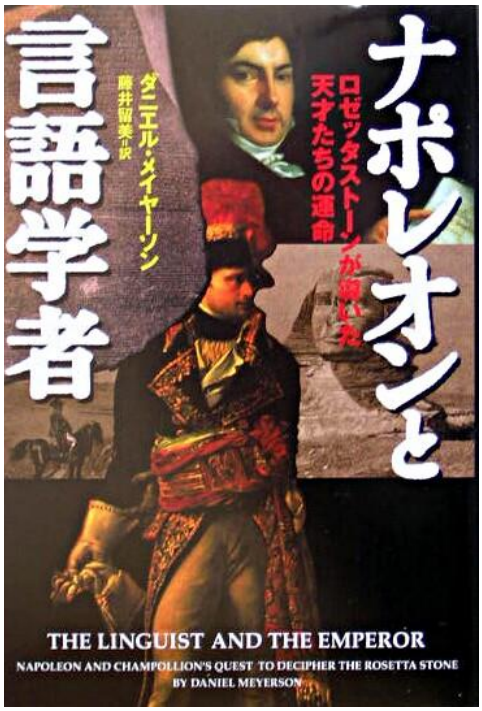


今谷明『籤引き将軍足利義教』
講談社、2003年

歴史教育で重視される室町幕府の将軍と言えば、1,3,8代将軍くらいで、あとは15代将軍が最後の将軍として教科書に名前だけ載るのが通例である。しかし、決して有名ではない6代将軍足利義教は、唯一籤引きで将軍に選出されたという点で、異彩を放っている。本書は、足利義教が将軍に選出された経緯とその治世を俯瞰し、さらに中世日本の占いの歴史を明らかにしたものである。

中世日本では、天皇が譲位すべきか否かなど、重要な選択に占いが利用されることはしばしばあった。足利義教もその一例である。義教が将軍に就任する以前は足利義持が実権を握っていたが、彼が後継者を指名せずに亡くなったため、籤引きで将軍が選出され、義教が将軍に指名された。しかし、彼は「万人恐怖」と言われる強引な独裁政治を行い、ついに重臣の赤松満祐に斬殺されてしまったのである。本書は、そんな教科書には載らない歴史を知ることができる、ぜひ読んでもらいたい一冊である。

鈴木友貴



ダニエル・メイヤーソン『ナポレオンと言語学者』
河出書房新社、2005年

ナポレオンがエジプト遠征を行った際、ロゼッタストーンがフランスに持ち帰られ、天才言語学者シャンポリオンによってヒエログリフが解読されるに至ったことはよく知られていることだが、そのくわしい経緯やナポレオンとシャンポリオンの関係性について知る人はそう多くないだろう。この本は、のちにフランスの栄光をにない、皇帝となるに至るナポレオンと、解読は不可能と言われたヒエログリフを解読するに至るシャンポリオンの姿を克明に描いた物語である。

ナポレオンのいわゆる百日天下の際に、この二人の天才がコプト語や歴代ファラオたち、記念碑に刻まれた彫刻、ドノンのスケッチなどについて夜遅くまで語り合い、エジプト史について共に思いを馳せる場面は、本書のハイライトである。物語風の文体で気楽に読めるのでぜひ手に取ってもらいたい一冊。

佐藤響

野村啓介『ナポレオン四代
－二人のフランス皇帝と悲運の後継者たち』
中央公論新社、2019年

フランス革命の英雄たるナポレオン1世、逆境を味わったのちに表舞台に華麗に復活を遂げたナポレオン3世については、日本においても知名度が高く、数多くの書籍が存在し教科書でも紹介される。特にナポレオン１世についてはその歯や書簡がオークションにかけられることもある。

一方でナポレオン2世、4世の事跡について、思いを馳せ、その運命を知る人はなかなかいないだろう。ナポレオン2世が最終的にドイツ貴族となり、ナポレオン4世が次期皇帝として将来を嘱望されながらフランス国外への亡命を余儀なくされたことを知る人がどれほどいるだろうか。

この本では栄華を味わったナポレオン一族のみならず、いずれも父親の没落に巻き込まれ、不遇を囲った2名のナポレオンの軌跡にも焦点を当てている。これによってナポレオン一族のみならず、この一族が彩ったヨーロッパの歴史まで見通すことができる本だと思う。

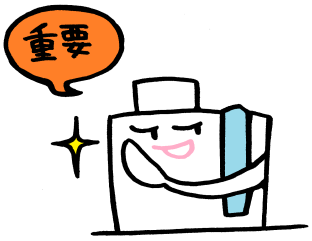
佐藤響

東京大学教養学部　主題科目　全学自由研究ゼミナール
「図書館の学び・活用・提案（こまとちゃんゼミナール）」
2019年度A2ターム成果発表冊子

著者　今井遼　重城守　中村潤　傅斯敏
佐藤響　鈴木友貴　西川知希　西嶋渉
編者　岡本佳子

発行日　2020年3月31日
発行　東京大学教養学部　主題科目　全学自由研究ゼミナール
「図書館の学び・活用・提案」

発行所　〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 101号館12室
東京大学教養学部附属教養教育高度化機構社会連携部門
TEL 03-5465-8820　FAX 03-5465-8821


重要